

テーマ

アートから“時代”を、“いのち”を、  
かんがえる

適用  
分野

美術評論、作品解説、展覧会企画、美術コンペ審査、芸術療法と芸術学の架橋



研究  
名称

近現代芸術批評理論の研究、  
芸術療法への芸術学的アプローチ

氏名  
所属

川田都樹子 教授  
文学部 人間科学科

内容

●特徴

近代・現代の芸術の批評、作品分析、作家研究、同時代の哲学・思想との連関、芸術作品が成立するところの社会的背景などを研究している。また、人間科学研究所では芸術療法と芸術学との学術的架橋を進めている。

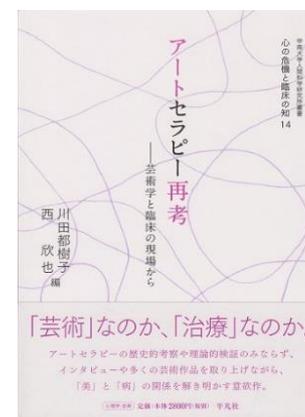
●研究内容

近代・現代の芸術作品と、それを取りまく社会状況、思想的背景などを論及。特に近代・現代の美術批評家たちの批評方法とその背後にある思想や時代背景について考察。（共著『芸術理論の現在-モダニズムから』東信堂、共編著『アートをまなぼうー開かれた芸術学の地平』ランダムハウス講談社など）

また、人間科学研究所では臨床心理学や精神医学の専門家との協働によって、芸術療法について、その歴史や現状における問題点など学際的研究に着手している。（共編著『アートセラピー再考ー芸術学と臨床の現場から』平凡社など）他に、甲南大学ギャラリー・パンセ（5号館1階）を開設し、美術展覧会やイベントの企画を博物館学芸員養成課程の実習の一環として行なってきた。



左「甲南大学ギャラリー・パンセ」での「岸本吉弘展『水平の夢』ギャラリー・トーク」より（撮影：稲田卓史氏）  
右「図書館エントランス」に設置された矢原繁長作品（寄贈）（『甲南 Today』,No.46 より）



キーワード

美学、芸術学、美術史、美術批評、モダンアート、現代芸術、芸術療法(アート・セラピー)

連携方法

- 講演
- 研修
- 研究相談
- 学術調査
- コメント
- 共同研究